

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170200345		
法人名	医療法人 香徳会		
事業所名	グループホーム あさひ		
所在地	関市美和町3番地		
自己評価作成日	平成22年9月1日	評価結果市町村受理日	平成22年11月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2170200345&amp;SCD=320">http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2170200345&amp;SCD=320</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成22年10月29日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームあさひは、昔の繁華街近くにあり、昔から伝わっているお祭りが催されたりし、散歩にて参加できたりします。重要文化財がある新長谷寺(吉田観音)は散歩コースであったりと、馴染みの環境を散策することにより、回想したり、季節感を感じたりし、ゆっりと過ごされています。近所の幼稚園へ訪れて園児との交流も可能です。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

垣根越しに、手入れの行き届いた松の木が、昔の風情を残している。そのなかに、民家を改造したホームの建物も、周囲に溶け込んでいる。利用者も、地域の一員として暮らしており、散歩の途中に馴染みの店に立ち寄り、話が弾み、気さくに値切って買い物をしている。訪問看護ステーションと契約を結んでおり、看護師による健康管理や医療面での助言・対応が行われ、身体面の安心が確保されている。また、職員のコマメな支援により、ほぼ全員の利用者が紙パンツから布パンツへ替わり、職員の努力がそのまま排泄の自立につながり、それが利用者の笑顔へと結びついている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念「一人一人の個性を尊重し、地域の中でその人らしく日常生活が送れるようにケアを行います」を職員間で唱和しながら共有して実践しています	「一人ひとりの個性を尊重し、地域の中でその人らしい生活が送れるように」との理念に添い、毎日出勤後、申し送りで確認し合い、その人に合わせた言葉掛け等を職員間で実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームの近隣にはいろいろな商店・神社などがあり、散歩に出た折には寄り道ができるように支援していただいております。又近所の方にも声をかけてもらっている	古い町並みが残る地域であり、近所の八百屋、パン屋等に買い物や散歩に出掛け、住民と気楽に挨拶し合っている。隣の幼稚園とは、体操の時間に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方から相談を受けたり、認知症の講義に出かけたりして、理解を得るとともに支援の方法を知ってもらうようにしています		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、あさひの状況を知ってもらうため毎月の行事表や次月の予定表を作成し、意見やアドバイスをもらうようにしています。又、町内の自治会長には家族の了解のもと入居者の情報を提供し支援を受けている	行政、自治会長、家族代表が参加し、2ヶ月に1回開催している。ホームの現状、行事などを報告し、グループホームへの理解が得られるよう努めている。	家族の要望があれば、休日に行うことも視野に入れ、行政や地域に家族の思いを汲み取ってもらえるような場とされたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村の担当者には運営推進会議や折にふれ実情を伝えるようにしている	ふるさと福祉村の事業に参加し、認知症についての学習会にホームから講師を派遣している。何事についても、行政にすぐ相談できる体制ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は身体拘束禁止の意義を把握しており、日ごろから身体拘束について勉強会を開き各自の意識を持つように話し合いをしている。	法人全体で拘束について研修を重ね、職員は施錠のみならず、広い拘束の意味を理解している。ベランダへも自由に出入りが出来、外へ出掛けたい利用者には職員が付いて町内を一周し、満足して帰ってくる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待の研修を受け、各職員にも徹底している。又、虐待の内容を事例を通して学んでいる		

岐阜県 グループホームあさひ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域権利擁護事業や成年後見制度の研修を受け各職員に伝達している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には利用者や家族の不安や疑問点をよく聞き十分な説明を行って契約を交わしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者には日ごろから要望を聞き対処している又、家族には訪問時や、電話などで状況を知らせ要望を聞いている又、毎年家族会の折に聞いたり、随時アンケート調査等を行っている	家族アンケートを随時行い、その意見は職員間で共有し、回答が必要な場合は家族に伝えている。訪問時や食事を共にしながらの家族会で、職員は気軽にお茶の接待をし、意見や要望を聴き、運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営者はホームに訪問したり、病院での研修会などに出席した折に意見や提案を聞いている又、相談にも気軽に乗っている	月に1回、職員会議を開催し、利用者のケアについて、要望に沿った支援が出来るよう、きめ細かな意見交換が行われている。職員の定着率が高く、管理者に気楽に意見が言える関係が出来ている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与については資格を加味している。又、各職員が向上心を持てるように研修に参加できるよう環境を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員を育てる取組に対しては能力向上の為に外部研修に行かせたり施設の中で講師を呼ぶなどし勉強している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に参加し交流している。また他のグループホームを訪問し情報交換をしてサービスの向上に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前、家族や本人からの聞き取りを行いケアプランに取り入れるようにしている。また入居前の施設にも出向いたり電話などで情報をもらってサービスの向上につなげている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族には十分時間をかけて、今まで困ったことや、これからどう生活して行っていきたいかを聞き取りケアプランに取り入れている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族との面談時他のサービスや支援を情報提供し対応している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は常に利用者の立場にたった生活を支援している又一緒に家事をしたり外出の機会を設け暮らしを共有している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族の訪問時、利用者の暮らしぶりを報告し本人との関係が良くなるように支援している又、家族と一緒に行事に参加できるよう支援している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ある利用者は自分の住んでいた家が気になっている。そのため買い物帰りにいつもその家を見てくれるように支援している	外出や受診の際に、自宅に立ち寄ったり、馴染みの商店で買い物をしてくる。古くからの友人が差し入れを持って訪れ、利用者の居室で自宅さながらにお茶を飲みながら語り合うなど、いままでの関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う仲間に関わりを持てるようし、席の工夫をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後も経過を訪ねたり本人の様子を見に行ったりして相談や支援をしている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時アセスメントをして本人の意向を把握している。又、日々の生活の中で本人の言葉やしぐさで真意を汲み取り支援している	入居時の聴き取りや、入居後の日々の生活の中で、新たな思いを把握している。「天気の良い日は歩きたい」「下呂温泉へ行きたい」等、利用者一人ひとりの思いや意向を把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントをしている。又それまでの施設へ出向き情報提供を受けている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日バイタル測定や食事量をチェックし現状を把握している又、食事量だけでなく水分量や排泄量もチェックシートに記入し職員で共有している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は本人・職員・家族とともに今何が必要かを見極め本人にとって一番大切なこと課題を見つけてプランを組んで実践している	家族の意見や利用者の思い、課題等について、全職員参加の会議で検討し、一人ひとりの利用者の現状に合った介護計画を作成している。毎月・随時の見直しを行い、訪問時や電話・郵送等により、家族に確認してもらい、同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録簿に情報を書き入れ職員間でその日の情報を共有している。介護計画に沿った記入の仕方をしている。実践の状態がよく分かるように工夫している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問看護ステーションと医療連携を結び利用者の緊急時の状態や受診の必要性や助言を受けている。それにより入院回避や職員の不安も少なくなっている		

岐阜県 グループホームあさひ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加したり、足湯の施設に行ったりしている。定期的に外食をしているが、安全な場所を選んでいくように予めトイレの状態を確かめたりしている又、近隣の幼稚園にもお願いし見学をさせてもらっている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族のそれぞれの希望を大切に希望のかかりつけ医を受診できるように支援している	利用者と家族の希望により、以前からのかかりつけ医とホームの協力医と自由に選択できる。法人の訪問看護ステーションによる24時間体制等により、利用者の体調管理は万全となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションとの契約に基づき、日ごろの健康管理や医療面での相談・助言・対応を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時情報提供をしている。又、病院を訪ね医師に経過を聞いたり、少しでも早く退院できるように地域連携室とも連携を取っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に係る指針を家族・本人と話し合い書面を交わしている。又状態が変わった時は本人・家族の気持ちを重視し、病院とも連携をとり支援につなげている	入居時に、看取り指針、終末期の事前確認等説明を行い、家族の同意を得ている。看取りの経験はあるが、現段階では、訪問看護とホームで対応できるまでを限界とし、それ以上の医療行為が必要になった時は、法人の病院へ移ってもらうことになっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内、法人の勉強会で訓練をし、実践力をつけるようにしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の防災訓練に参加したり定期的に避難訓練や防災訓練を行っている。又、自治会長さんを中心に地域の方とも連携が取れるように計画をたてている	年に2回、自治会と合同で防災訓練を行い、消火器の使い方、避難経路の確認等を行っている。利用者を安全に避難させるよう、自治会に協力を呼び掛けている。	さらには、火災や地震、水害等様々な場面を想定した、自主訓練を計画中である。地域との協力体制も含め、運営推進会議での話し合いに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員間で関わり方や、言葉使いなどお互いに気をつけている。記録簿は個人情報漏れないように施設の中で取り決めをしている。	利用者一人ひとりの生活歴、職歴に合わせた言葉掛けに配慮している。法人内で接遇の研修を行ったり、職員会議で、利用者の人格を尊重するケアについて学習し、実践している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が希望を言えるような環境にしている(入床・起床時間)(入浴時間)言葉かけの際もじっくりと聴く姿勢をとっている。職員の決めごとを作らず、利用者を選択してもらうように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩や外出の意向を本人に確認しながら行っている。それぞれの人が思い思いに過ごし易いように環境を整えている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の着替えはそれぞれ好みの洋服に着替えてもらっているが明らかに季節が合わない洋服を選んで見えるときは、それとなく部屋へ誘って着替えてもらっている。理・美容については本人の意向で近所の美容院への送迎の介助をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは利用者に問いかけながら、一緒に作ったりしている。又、畑で収穫したものを調理するのも楽しみになっている。配膳や後かたづけなどを一緒に行っている。	利用者に食べたい物を聞き、献立に反映している。散歩のついでに近所の八百屋で利用者と共に食材を購入し、調理の下ごしらえ、テーブル吹き、片付け等も職員と一緒にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や一人一人の状態を観察しながら、栄養補給をしたり、水分も一日を通じてとれるようにしている。水分チェック表を活用している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアに誘い入れ歯の手入れや、自分ではできない人の介助をしている。忘れてしまっている人には歯ブラシを渡し自分で磨けるように見守っている。		

岐阜県 グループホームあさひ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンを把握してケアプランに取り入れ職員間で共有している。紙パンツの人も屋間は布パンツに履き替えて皮膚のトラブルを防いでいる。又交換を拒否される方には職員を変えたり二人で行ったりして介助している	排泄チェック表を基に、本人の時間帯に合わせ、声掛けをすることで、ほぼ全員が布パンツ使用となっている。入院し、紙パンツで退院した利用者が、職員のごまめな配慮により、短期間で布パンツへ替わり、職員の努力が、排泄の自立へと結びついている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘対策には薬に依存しないで繊維質の多い食物で工夫している。又、水分を夜間も取れるように支援している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時は好みに合った湯温にして楽しんでもらっている又出来ることはしてもらい本人の思うように楽しんでもらうようにしている	週3回の入浴日には、日替わりの様に入浴剤を変え、温泉気分を楽しんでいる。入浴拒否者へは、「風呂が沸いているから入っていか」等、家族に話しかけてもらうなどの協力を得ている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝や夜寝る時間も本人の意向をふまへ支援している。又、部屋の環境を考え四季を通じて快適に過ごせるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用については職員間で勉強会をして確認している。服薬事故につながらないように確認を幾重にも行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの生活歴を把握して楽しみ事や役割ができるように日々支援している。たとえば朝のコーヒータイムも今までの生活を考慮し選べるように配慮している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日はできるだけ散歩に行ったり、本人の行きたい場所へ行ったりしている。又、地域のイベントにも積極的に参加している。	ホーム周辺の、お寺や商店街を廻るコースを、買い物も兼ねて、毎日のように散歩している。また、6人乗りのホームの車で、桜、ひまわり、コスモス園などへの花見や、地域行事にも計画的に出かけている。	



岐阜県 グループホームあさひ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族との話し合いにより、本人が近所のお菓子屋や美容院などで自由に使えるお金を預かっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や、日ごろの状況報告をする等支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には利用者の作品を飾ったり、花を生けたりしている。又、キッチンと居間は見渡せるようになっており、ベランダでは日向ぼっこをしたり、流しソーメンをしたりして楽しめるようにしている。	普通の民家を改造したホームであり、利用者は自宅にいるような表情で、暮らしを楽しんでいる。2階のベランダは大変見晴らしが良く、日々の外気浴、時には流しソーめんを楽しむ場ともなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人一人が静かに過ごしたりできるように配慮している。又、気の合った人同士で並んで過ごせるようソファも用意しており、笑い声が常に聞こえている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人のADLに合わせて家族とも相談し部屋を決めている。居室にはなじみのものを飾るなどして居心地の良い空間を作り出している。誕生会の写真や行事の際の写真なども部屋に飾っている	居室は、利用者が使いやすいような間取りとなっており、筆筒や椅子等が持ち込まれ、壁には、家族の写真や本人の作品などが飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物の中にはいろいろ表示があり、本人が自立して生活できるように工夫している。(トイレ・食堂・風呂場・居室等)目印の造花なども付けている		